

4-7

認知症の方の自立支援に向けて

落ち着いて過ごして頂ける環境づくり

たいとう高齢者在宅サービスセンター

発表者：生活相談員 廣瀬 悦子	共同研究者：ケアワーカー 大図 亜貴恵
所在地：台東区台東 1-25-5	
TEL：03-3834-4437	E-mail：taitou@seifuukai.or.jp
FAX：03-5807-5738	URL：http://www.seifuukai.or.jp

今回の発表の施設 またはサービスの 概要	社会福祉法人聖風会が母体であり、平成 13 年 6 月に開設。特別養護老人ホーム 50 床とショートステイ 10 床です。高齢者在宅サービスセンター、地域包括支援センター、ケアマネジメントセンターも併設している高齢者総合福祉施設です。
----------------------------	---

〈はじめに〉

個別的な関わりを必要とする方や、徘徊する利用が増え、他利用者との関わりが希薄になったり、落ち着かない雰囲気の中で活動等を行っていた。

〈取り組んだ課題〉

1. センターに到着後、荷物や連絡帳を職員が全て回収。
2. トイレやゴミ箱等の表示が分かりづらい。
3. バイタルチェック時に、大きな声で名前バイタルを読み上げ記録。
4. 活動内容が乏しい為、参加が出来ない利用者がある。
5. 午後になると帰宅時間を気にして落ち着きがなくなり、フロア内を歩き回ってしまうなどの行動が見られる。

〈具体的な取り組み〉

1. 到着時、名札が置いてある席に誘導し、荷物から連絡帳をご本人に出して頂くようにした。
2. トイレ・ゴミ箱・お手拭タオル等の表示を大きくわかりやすくした。
3. バイタルを測定した人が記録も行うようにした。
4. 個々の能力、趣味にあった活動内容を検討した。
5. 1 日の予定を記入したボードを用意した。（午前・午後の予定・入浴・リハビリ・帰宅時間等記載）
 - ・利用者が落ち着いて過ごせるように、物品の配置を変え、職員の動きを最小限にした。
 - ・職員全員が、場面に応じた声の大きさ、タイミングを心がけて、ゆっくりとせかさずに接するように意識統一を図った。

〈活動の成果と評価〉

*利用者の行動が変わった。

1. 到着後荷物を机に置き、自ら連絡帳を出したりする姿が見られるようになった。
2. トイレ・トイレ内の電気の場合・ゴミ箱等の表示を大きく見やすくしたことで、利用者の行動にも迷いが少なくなり、職員が声を掛けることなく自分で行えることが増えていった。

*全体的に、静かで落ち着いた雰囲気作りにつながった。

3. バイタルチェックを測定した者が記入する形にした事で、職員が大きな声を出すことがなくなった。
4. 利用者一人ひとりのペースにあわせて、活動などを提供しよう心がけていったことで、無理をせずゆったりと過ごせるようになった。
5. 1 日の予定を書いたボードを用意することで、自分の予定を確認する習慣が出来たり、帰宅願望のあった利用者の方も、ボードの予定表で説明をすると一時的ではあるが落ち着くなどの効果が見られるようになった。
 - ・職員の動きや役割を分担したことで、あわたたしさが無くなった。

〈今後の課題〉

- ・一般デイ・認知デイ担当職員の情報不足や協力体制の希薄化の解消
- ・自立を支援する活動や作業の多様化

【メモ欄】